読書推進運動

公益社団法人
読書推進運動協議会
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1-32
出版クラブビル6階
TEL　03(5244)5270
FAX　03(5244)5271
発行人　佐々木　泰
編集人　片岡　伸子

No.695

定価60円　会員の購読料は会費の中に含まれる

★「読書週間」がはじまります！（2頁）
★「第55回 野間読書推進賞」受賞者決定（3頁）

「読書週間」によせて

誰にとっても、自分の場所がある図書館
―先進図書館を訪ねて―

公益社団法人 日本図書館協会 理事長
公益社団法人 読書推進運動協議会 副会長
植松貞夫（うえまつさだお）

5月に北欧の図書館をめぐる旅をしました。行く先々で職員が、いかに自分たちの図書館が素晴らしいかを饒舌に語るのには、本当に清々しい気持ちにさせられました。特にデンマークとフィンランドは図書館先進国として知られ、活発な利用と運営やサービスの工夫が呼応して、特色ある図書館が各地に見られます。そして両国ともその根幹である図書館法が、図書や情報流通の変化、国民ニーズなどに対応して改正が繰り返され、先進性を維持しています。

今回はフィンランドと首都ヘルシンキ市の新中央図書館を紹介します。まず、フィンランドの図書館法では、すべての自治体に図書館の設置を義務づけています。そのため、昨年度の統計では、わずか560万人が住む日本より少し狭い国土に、公共図書館は706館あり、人口比でみる設置数は日本の約5倍です。ここに計2600万冊の蔵書が蓄積され、国民ひとり当たりの年間来館数は約10回、貸出数は13冊、合計約7400万冊が借り出されています。フィンランドの公用語はフィンランド語とスウェーデン語ですが、蔵書のほぼ9割がフィンランド語で残りはスウェーデン語と英語など他の言語が半々です。日本よりはるかに少ない読書人口であり、他国では使用されない少数言語の出版事業は厳しいうえ、これほどたくさんの貸出により、図書の販売数が失われているということで、1961年から貸出数などに応じて、著作権者の団体に国から補償金が交付されています。一方、年間130万冊を超える図書が新たに購入されています。すなわち、図書館は少数言語国での文字・活字文化の維持という役目を担っているのです。とはいえ、1990年代の経済の停滞と人口の都市集中により40年前から200館以上も減少し、来館者数も貸出冊数も減っています。その理由は、インターネットの普及に伴う情報流通や日常生活行動の変化です。

さて、2018年末に開館したヘルシンキ市の新中央図書館は、中央駅から徒歩数分の好立地で、市民の多様な活動でにぎわう広場をかこんで、現代美術や音楽などの文化施設に隣接しています。新館建設が建国100年を記念する国家プロジェクトに位置付けられ、市民を交えた構想検討会が繰り返されました。建物のデザインは世界中から寄せられた500を超える案から、市民も投票してフィンランド人建築家が選ばれました。長さ100メートル、3階建ての細長い建物で、広場側にうねりながら迫り出す2階までの曲面壁の上に、雪か雲かと見間違えるような白いガラス張りの3階がふわりと乗った造形的な形で、文字どおり「絵になる」建物です。運営・サービス理念と美しい建築の両面が評価され、国際図書館連盟が年に1館だけに授与する公共図書館・オブザ・イヤーを2019年に受賞しています。館内を説明してもことばでは尽くせません。絶えることなく来館者が入ってきます。乳母車に乗せられて来た乳児も高齢者もそして外国人旅行者までもが、開放的で居心地のよい館内を、存分に使いこなしています。そこは、これからの図書館像を見せてくれるモデルルームです。

さわやかな秋、本の森で大きく深呼吸！

10月27日(月)より、「読書週間」がはじまります。今年の標語は「こころとあたまの、深呼吸。」。

ポスターについては、今年も全国より多くの配布希望、お問いあわせをいただいています。「図書館だより」などへのポスター画像の掲載は、加工（縦横比率の変更、色の置き換え、画像の切り抜きなど）せずにそのままの形でしたら、問題ありません。ＳＮＳへの画像投稿も同様に、加工せずにぜひ、お願いいたします。

ポスターは公共図書館へは各道府県読書推進運動協議会・各都道府県立図書館、学校図書館へは全国学校図書館協議会、書店へは日本出版取次協会の協力により各販売会社を通じて配布しております。部数追加をご希望の施設や団体は、遠慮なく当協議会事務局へお申しつけください。

また、過去のポスターデータの貸出も例年同様に行っておりますので、興味をお持ちの方は事務局までご連絡ください。

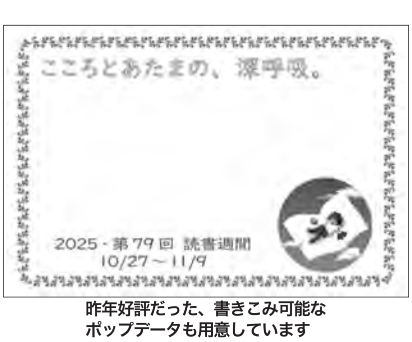
ホームページ「素材集」のポップやしおり、ブックカバーのデータも公開しております。今後のデータ作成の参考といたしますので、活用事例など、ご意見、ご感想をぜひ、事務局までお寄せください。ポスターのＪＰＥＧデータもこちらにあります。

本年も、「読書週間」雑誌広告を用意し、日本雑誌協会の協力により各雑誌出版社へ掲載を呼びかけました。10月1日現在で、15社58誌の協力をいただいております。おもに10月中旬～11月初旬発行の雑誌に掲載されます。当会公式X（旧 Twitter）でも、広告掲載情報を随時投稿いたしますので、書店で見かけましたら、ぜひ、手にとってください。

公式Xではその他、「読書週間」「こころとあたまの、深呼吸。」に関する図書館・書店・出版社の投稿を昨年同様、できるかぎりリポストしていきます。いわゆる「中の人」がひとりで、どこまで手が回るか不安ですが、「読書週間」を盛りあげるためにも、ぜひ、「読書週間」での取り組みを投稿してください。

書店では、先月ご紹介した図書カードＮＥＸＴが当たる「読者還元祭」が10月24日よりはじまります。

全国の公共図書館、図書室で開催されました行事について、「読書週間」終了後に各道府県読書推進運動協議会より報告をいただき、来年4月に本紙別冊付録「行事報告一覧」を発行します。



昨年好評だった、書きこみ可能な
ポップデータも用意しています

■2025年度・第55回 『野間読書推進賞』決定

9月12日㈮、東京都千代田区の出版クラブビルで行われた『第55回 野間読書推進賞 選考委員会』において、2025年度の受賞者が左記のとおり決定しました。

（敬称略）

《団体の部》

・公益財団法人 ふきのとう文庫（北海道札幌市）

《個人の部》

・岩田 美津子（大阪府大阪市）

今年度の野間読書推進賞は、例年同様、道府県読書推進運動協議会や教育委員会などに受賞候補者の推薦をお願いしました。

いただいた推薦数は、団体の部11（前年15団体）、個人の部4（前年2人）です。

8月22日㈮に開かれた、事業委員会による第一次選考会では、事前に委員に資料を送付し、会議当日に各候補者への評価とその理由を討議、選考会に向けて9団体4個人を選出し、選考委員会に提出しました。

選考委員会も、第一次選考会と同じ形式で開催され、慎重な討議の結果、前記の受賞者が決定しました。

団体の部の公益財団法人 ふきのとう文庫は、1973年に設立。創設者の小林静江さんが自宅で開いていた障がい児対象の家庭文庫が母体です。全国的にもめずらしい、特色のある私立バリアフリー図書館で、障がいの有無に関わらず子どもたちが立ちよれる場所となっています。図書館内に工房を設けており、拡大写本・布絵本などバリアフリー図書も製作。作った図書は館内で閲覧・貸出されるほか、病院・公立図書館などでも活用されています。歴史ある財団法人ですが、小林静江さんが草の根から始めたこと、その志をしっかり引き継いでいることも評価されました。

岩田美津子さんは、ご自身が全盲ですが、晴眼者の息子さんに「絵本を読んであげたい」との思いから、市販の絵本に透明シートで絵の形や点訳文を貼った「てんやく絵本」の製作を始めました。1984年に自宅で「点訳絵本の会 岩田文庫（現：NPO法人 てんやく絵本ふれあい文庫）」を開き、多くの親子にてんやく絵本の体験を提供。また、郵送による貸出も行っています。2002年には、出版社・印刷会社・書店・ボランティア・作家などに呼びかけ、「点字つき絵本の出版と普及を考える会」を発足し、年2回の定例会で点訳絵本の出版にむけて情報共有をしています。

ふきのとう文庫、岩田さんともに、十分すぎるほどの活動実績、知名度があり、事業委員会・選考委員会ともに、「なぜ、いままで推薦されてこなかったのか？」の声が上がりました。活動の規模と範囲が広いため、なかなか、地域の図書館からは推薦しにくかったのかもしれません。

本年も、地域に根差した、地道で誠実な活動を重ねている団体、個人へのご推薦をいただきました。ご推薦をいただいたみなさまへ、感謝いたします。今年は、出版社や新聞社からの候補者推薦もあり、読書推進運動が注目されている機運も感じられました。その一方、例年ご推薦をいただいている候補者については、長年一定以上の活動を継続している実績を認めつつ、今後の活動継続に向けた後継者育成への動きや、数的データも含めるなど、「もう少し、推薦書で具体的な内容を記載してもらえれば……。惜しい」という意見がありました。

贈呈式は11月7日㈮、午前11時より、東京都千代田区神田神保町の出版クラブビルで開催します。

■取協「読み聞かせ会」開催

本屋さんで読み聞かせを楽しんで！

一般社団法人 日本出版取次協会（取協）は、毎年恒例の書店店頭での「読み聞かせ会」を、本年も10月25日㈯から12月21日㈰までの土・日・祝日に開催すると発表した。

この「読み聞かせ会」は、読書推進と書店店頭の活性化を目的に開かれており、今回で24回目を迎える。近年では、出版業界が協力するイベント「BOOK MEETS NEXT」との連携も取りながら開催されている。昨年度は、全国270の書店が参加しており、本年も多くの書店の参加が期待される。

開催書店とスケジュールは、10月下旬以降、取協ホームページに掲載される。会場で案内される読者アンケート（付き添いの保護者対象）に後日答えると、抽選で図書カードが当たるキャンペーンも実施されるので、ぜひ、親子でご参加を。

●日本出版取次協会ホームページ

http://www.torikyo.jp/

■第58回 造本装幀コンクール

学術、アートから実用書まで 今年も多様な作品に授賞

第58回「造本装幀コンクール」の授賞式が9月29日(月)、東京都千代田区神田神保町の出版クラブビルで行われた。日本書籍出版協会・日本印刷産業連合会が主催し、出版物について印刷、製本、装幀、デザインなどの観点から評価、顕彰するアワードだ。今回は308点の応募のなかから22の賞が選出された。各賞の表彰に続いて、審査員が選ぶ「三賞」の受賞者代表が謝辞を述べた。

『Notochrome』（龜鳴屋）は文部科学大臣賞で、金沢市在住の写真家 湯浅啓氏による能登の写真集だ。登壇した湯浅氏は、この写真集は震災の前から企画が進んでいたが、震災があったことで造本装幀など本づくりを全面的に見直すことになった経緯を紹介したうえで、能登は訪れるたびに新しい発見がある。今も毎週のように撮影に行っていると話した。

各賞受賞者と審査員による記念写真

経済産業大臣賞の『イヴ・ネッツハマー ささめく葉は空気の言問い』（宇都宮美術館／下野新聞社）は、２０２４年に宇都宮美術館で開催されたインスタレーションアートの図録である。登壇した同美術館学芸員の石川潤氏は、通常の展示のように事前に図録が制作できない事情に、「この際いっさいの妥協を排して作成しよう」と方針を定めたという。その結果、三方小口の赤いメタリック箔などの特徴的な造本が実現した。

東京都知事賞の『生の実感とリアリティをめぐる四つの探求―「人文・社会科学」と「アート」の交差から立ち現れる景色』（デサイロ）では、デザイナーの畑ユリエ氏と版元の編集者小池真幸氏が登壇。学術とアートのコラボレーションをパッケージした企画意図を紹介。

受賞作だけでなく全応募作が出版クラブ
ライブラリー（東京都千代田区）に展示中

さて、後援団体賞である「読書推進運動協議会賞」では『シャーロック・ホームズの護身術 バリツ』（平凡社）を表彰することができた。ビクトリア朝末期の英国風ユーモアが香る趣味のよい一冊である。他の賞については公式サイト（https://www.jbpa.or.jp/zohon/zohon-winning.html）を参照のこと。

なお、9月24日から10月30日まで出版クラブライブラリーで第58回の受賞作品をはじめ、全応募作品308点が展示される公開展示を実施。さらに今年は10月19日(日)まで誠品生活日本橋・誠品書店にて、販売・パネル展示フェアを開催。

■「絵本ワールドinひょうご」

毎年の開催都市も魅力 兵庫県に定着した親子イベント

「絵本ワールドinひょうご２０２５」が9月20日(土)、21日(日)の両日、兵庫県姫路市のアクリエひめじにおいて行われた。一昨年西宮、昨年明石、そして今年の姫路と所を変えながら県下の主要都市で開催されている。

兵庫県書店商業組合の主催であり、多くの出版社がブースを展開し、絵本の販売を実施。家族連れが本を手にとって熱心に選ぶ姿が見られた。

2日間を通してさまざまなイベントがあり、子どもたちを楽しませた。ゲストの恐竜画家CANさんはステージで恐竜のライブペインティング、絵本作家のイヌイマサノリさんは歌いながらのペインティングを、それぞれ行った。ワークショップとしては、妖怪のお面づくり、オリジナル缶バッジづくり、ハロウィンのバッグづくり、紙コップの工作などなど、趣向を凝らしたメニューが展開。

アクリエひめじの別フロアで子育てファミリー対象の別イベント「ママキッズフェスタ」が開催されていたこともあり、相乗効果でにぎやかな2日間となった。

CANさんのライブペインティングは
子どもも大人も夢中になりました

絵本の展示販売では多くのタイトルを
手に取ることができました

■高橋松之助記念「朝の読書大賞」「文字・活字文化推進大賞」

朝の読書の継続と推進、図書委員会の活発な活動を評価

公益財団法人 高橋松之助記念顕彰財団は、9月12日(金)、「第18回高橋松之助記念『朝の読書大賞』『文字・活字文化推進大賞』」の受賞者を発表した。

●第18回 高橋松之助記念

○朝の読書大賞

・嬉野市立吉田小学校（佐賀県嬉野市）

・身延町立身延中学校（山梨県南巨摩郡身延町）

・鳥取県立倉吉総合産業高等学校（鳥取県倉吉市）

○文字・活字文化推進大賞

・矢祭町（福島県東白川郡）

「朝の読書大賞」は朝の読書で顕著な実績のあった学校に、「文字・活字文化推進大賞」は文字・活字文化に振興に業績のあった地方自治体・団体・個人に贈られる。

吉田小学校は9学級、児童66名の小規模校。朝の読書は2000年から継続されており、2010年からは親子で読む「読書回覧板（家読）」も実施。児童による図書委員の活動も活発という。

身延中学校は朝の読書継続10年目。生徒の図書委員会がさまざまな読書活動を推進している。山梨県立図書館主催「贈りたい本大賞」などにも積極的に取り組んでいる。

倉吉総合産業高等学校は2003年の創立以来、朝の読書を継続。全職員が積極的に取り組んでいる。「図書館は出会いの場」をコンセプトに、地元企業と連携した展示、生徒のこころの居場所「ハートカフェ」などさまざまな取り組みを行っている。

矢祭町は、2007年開館の「矢祭もったいない図書館」を中心に読書活動を推進。2021年に「読書活動の推進に関する条例」を定めて、読書を町の重要施策として取り組んでいる。2023年からは小学校の教育課程に子ども司書講座カリキュラムを導入。朝読・家読の推進と、「手づくり絵本コンクール」の継続も評価された。

贈呈式は11月4日(火)、出版クラブビル（東京都千代田区）で開催される。

■紙芝居文化の会 紙芝居講座

紙芝居について基本を学び、演じる喜びを広げる

紙芝居文化の会は、11月15日(土)・16日(日)の2日間にわたり、「2025年 紙芝居講座 もっと広げよう紙芝居 もっと演じよう紙芝居」を、対面（会場＝出版クラブビル〈東京都千代田区〉）とオンライン形式で開催する。

講座では、基本を大切にしながら、新しい角度から、紙芝居を演じることを深める。戦後80年の今年は、「紙芝居は今、平和のために何ができるか」、それぞれの作品にこめられた平和への想いを確かめあう。

15日には、内田麟太郎さん（詩人・絵詞作家）のお話「ナンセンスは非戦のこころ」を予定。終了後に、紙芝居のサインセールも行われる。

参加には、事前の申し込みと参加費が必要（1日のみの参加も可）。会場参加の申込締切は11月7日(金)、オンライン参加の申込締切は11月15日(土)で、定員になりしだい締め切る。申込方法、プログラムの詳細は、紙芝居文化の会ホームページで確認できる。

また、紙芝居文化の会は12月7日の「世界KAMISHIBAIの日」に、日本中、世界中で紙芝居を演じてほしいと、呼びかけている。同会のイベント、全国の取組も、ホームページで随時、紹介される。

●紙芝居文化の会ホームページ

https://www.kamishibai-ikaja.com/

申し込み用 QR コード

■別冊『こどもの読書週間 行事報告一覧』

多くのご報告に感謝！ 一部行事をご紹介

各道府県読進協および各道府県図書館・類縁機関のみなさまより多くの行事報告をいただき、本紙別冊『2025年 第67回 こどもの読書週間 行事報告一覧』を発行できました。みなさまのご協力に、あらためて感謝申しあげます。

紙面の関係で、一部の行事の内容を省略させていただいております。ここに、各行事の内容をご紹介いたします。

●「本の福袋」「ラッキーブック」など＝図書館が推薦する本を対象年齢やジャンル・テーマ別に複数セットして貸出。本は紙袋や包装紙でタイトルが見えないようラッピングされ、利用者はラッピングに貼られたジャンル・テーマ・推薦文などを頼りに、セットを選ぶ。

●「ぬいぐるみのお泊り会」など＝子どもが自分のぬいぐるみと一緒におはなし会などイベントに参加。ぬいぐるみを図書館に一晩預ける。夜の図書館でぬいぐるみたちが図書館探検や読み聞かせをする様子を撮影し、返却時に写真も進呈。「ぬいぐるみが選んだ本」を子どもに進めたり、写真をアルバムにして渡すこともある。

●「一日司書」「一日図書館員」など＝カウンター業務や、図書の配架などを体験。閉架書庫などのバックヤードの見学や、読み聞かせ実演の体験、推薦図書のポップを作って展示コーナー作りをすることもある。

優良読書グループの歩み⑽

２０２４年度の「読書週間」に際して道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。

（順不同）

わくわく沢っ子読書ボランティア

島根県仁多郡奥出雲町
代表者　景山　雅美
〈推薦〉島根県読書推進運動協議会

読み聞かせを始めたきっかけは、わが子の担任の先生から「学校帰りの子どもたちに本を読んだり、活動できたりするような居場所を作ってくれませんか」と声をかけられたことからでした。読み聞かせの活動がわくわくするものであってほしいとの願いを込めて〝わくわく沢っ子〟というグループ名にしました。

１９９３年に発足し、三沢公民館を拠点に年6回必ず本を2冊ずつ読むことをベースとし、保護者5名の参加で、七夕会、クリスマス会など、四季の行事にあわせた読書会を企画しました。なかでも地域のおばあさん方が参加し、昔話をしながら、ススキでフクロウの置物を作ったことは忘れられません。また、身近な草花を摘んで押し花にし、しおりや壁飾りを作ったり、クリスマス会では、リースやツリーを作ったりもしました。そして3月には進学・進級のお祝い会として、三沢でご活躍の茶道の先生をお呼びしてお抹茶の点て方・飲み方を習い、和気あいあいと喜びあう時間を過ごしています。

活動当初は、夜、ボランティアのお母さん方が公民館に集まって、ブラック紙芝居やパネルシアターなどを手作りしました。手探りで始めた初期のころは、子どもたちの反応も大人しく静かに聞く感じでしたが、今では笑ったりつぶやいたりと素直な反応も見られます。大きな変化としては、読み手が2冊とも大人だったのが、２０２３年から1冊を子どもが当番制で読むようになったことです。現在は若いボランティアの方々の参加もあり、今までとはまたひと味違ったアイディアが出るなど、変化ある活動を楽しんでいます。

読み聞かせで大切なことは、子どもたちのことを思い、どんな顔をするんだろう？とわくわくどきどきしながら1冊を選ぶことだと思います。

始めてから30年という月日が経ったことへ驚くとともに、〝こうして活動が続けられるのも、地域のみなさま、公民館の方々、そしてボランティアのみなさまのご協力のお陰〟と感謝の気持ちでいっぱいです。このたびは、本当にありがとうございました。

読み聞かせだけでなく、行事体験も大切にしています

ゆりの会

長崎県長崎市
代表者　濵崎　惠子
〈推薦〉長崎県読書推進運動協議会

１９８７年に長崎市主催の婦人ボランティア講座受講修了後に「ゆりの会」は結成されました。50代から80代までの会員が、布絵本、おもちゃを手作りしています。月3回定期的に集まり、自分の活動できる時間に参加するようにしています。

できあがった作品は図書館に寄贈し、児童書フロアに常設され、多くの人が自由に見たりさわったりできます。季節にあわせた入替、補充、修理も活動の一環です。

子育て支援センター、認定保育園、読み聞かせグループ、子ども文庫などにも貸し出し、保護者、保育者から「親子のコミュニケーションができ、絵本で喜び、楽しみが体験できます」など現場の声を聞くと、布絵本を通して、もっと親近感、期待感を持ってもらいたいと製作にも力が入ります。

布絵本を作るときは、著作権の許諾をとることが必要です。それをクリアして、子どもたちに絵本の楽しさを知ってほしい思いで製作に取り組んでいます。色・形・大きさにこだわり、忠実に再現するまで、半年から11年近くかかることもあります。

オリジナルの本を手がけるときは、みんなでアイディアを出しあい、材料を集めていきます。はば広い年齢層、個性豊かなメンバーと楽しく語りあいながら作業しているなかで、若い人が仲間に入ってほしいのが願いです。

これからも他の団体との交流イベント、講習会などで情報交換をし、柔らかさと暖かみの布の癒しの力を活かした布絵本の紹介、普及を続けていきたいと思います。

こだわり抜いて作った布絵本をこれからも子どもたちに

いとまん 読み聞かせの会 日々草

沖縄県糸満市
代表者　大城　むつみ

〈推薦〉沖縄県読書推進運動協議会

「いとまん 読み聞かせの会 日々草」は、糸満市内の小中学校読み聞かせボランティアが勉強会で集まったことをきっかけに、2004年に発足しました。メンバーは「学校の枠を越えて絵本の楽しさを伝えたい」との思いで20年間活動を続けてまいりました。会長・副会長・会計をおき、現在はおもに7名で活動しています。

おもな活動は糸満市内の小中学校やこども園、糸満市立中央図書館での読み聞かせです。中央図書館のおはなし会では、乳幼児から小学生まではば広い年齢を対象にしています。子どもたちが飽きないように絵本以外にエプロンシアターやパネルシアター、手遊びなどバラエティに富んだ内容でプログラムを組んでいます。子どもたちの「楽しかった!」という笑顔が活動の源となっています。

糸満市主催のイベントや事業にも積極的に関わり、毎年11月に開催される市のイベント「絵本のひろば&子どもげきじょう」では、「読み聞かせの部屋」での実演や「子どもげきじょう」出演など毎回協力しています。

ほかにも糸満市ブックスタート推進員として乳幼児健診会場で赤ちゃんへの読み聞かせの実践、市主催の読み聞かせ講座で講師を務めるなどして、絵本や読み聞かせの楽しさ・大切さを伝えています。

さまざまなイベントや事業に協力していくなか、しだいに他市町村での読み聞かせやイベント参加など、活動の場も広がってきましたが、メンバーには「無理せず、できるときに参加する」として、おたがいの立場を思いやり協力しあうことを大切にしています。子育てや介護などで活動をお休みしているメンバーにも近況を報告して、いつでも復帰できるような雰囲気づくりを心がけています。

バラエティに富んだプログラムが子どもたちをひきつけます

コロナ禍では思うように活動できず、長い間読み聞かせができませんでした。今後は地域を中心におはなし会を開催し、子どもたちに読み聞かせを通して読書する喜びを伝えていきたいと考えています。また大人への読み聞かせ、特に高齢者を対象とした読み聞かせを行いたいと思い、「島くとぅば(沖縄方言)」の勉強も始めました。

子どもたちだけでなく、高齢者の方々も笑顔にできるよう、これからも楽しみながら末永く活動を続けていきたいです。

『2023年度 全国読書グループ総覧』報告追加

8月1日付で恵那市中央図書館(岐阜県)より報告をいただいた10グループを下記のとおり追加します。これにより、岐阜県の読書グループ数は225、全国の読書グループ総数は1万1702となります。詳しい数字は、当協議会ホームページに掲載いたします。

グループ名	代表者名	主な活動場所	人数	発足年月	定例活動回数	特別活動回数(年)	活動内容

岐阜県追加

○恵那市中央図書館(恵那市長島町中野 2-2-5)

グループ名	代表者名	主な活動場所	人数	発足年月	定例活動回数	特別活動回数(年)	活動内容
●子どもの本・一般の本グループ							
明智町読みきかせの会	伊藤 しき	明智コミュニティセンター	17	1986	年6	30	実演G
恵那朗読の会	桝内 香織	恵那文化センター	11	2006.4	月2	50	読書会
図書館サポーターえな	高草 環	恵那市中央図書館	62	2007.4	月17	20	実演G、環境整備
ブックサポーターかみやはぎ	藤野 ゆみ江	上矢作コミュニティセンター	17	2007.10	年9	2	実演G、文庫、環境整備
たけなみブックフレンドきつつき	渡辺 明美	武並コミュニティセンター	13	2009.2	年1	5	実演G、環境整備
おはなしの会 やまびこ	鈴村 千夏	中野方こども園、中野方小学校、中野方コミュニティセンター	11	2009.8	月4	6	実演G、文庫、環境整備
東野おはなしの会 ちちんぷい	千藤 真理子	東野小学校、東野コミュニティセンター	13	2012.4	月1	14	実演G、環境整備
くしはらブックサポーター	安藤 裕子	串原コミュニティセンター	6	2015.4	年2	3	読書会、実演G、環境整備
山岡図書サポーター 文月(休会中)	伊藤 さとり	山岡コミュニティセンター	35	2016.6	年7	6	読書会、実演G、読書支援
●一般の本グループ							
あすなろ会	堀 有希	明智コミュニティセンター	5	1961.4	月1		読書会

2026年

第68回「こどもの読書週間」

2026年4月23日～5月12日

第80回「読書週間」

2026年10月27日～11月9日

標語募集！

２０２６年 第68回「こどもの読書週間」と第80回「読書週間」の標語を募集します。

この標語は12月中旬に公益社団法人 読書推進運動協議会の事業委員会で選定し、それぞれのポスターに刷り込んで全国の新聞社・雑誌出版社へ、また道府県読書推進運動協議会、都道府県立図書館を通じて公共図書館などへ、全国学校図書館協議会を通じて全国の学校へ、出版取次各社を通じて全国の書店に送られ掲出されます。

「こどもの読書週間」のポスターは、ザ・キャビンカンパニーのイラスト・デザインを予定。秋の「読書週間」は、４～６月に募集するポスターイラストとの親和性を高めるため、この時期に標語を募集します。これまでの標語は、当協議会ホームページでご覧いただけます。

●《応募要項》

①標語案＝どちらも、読書の豊かさ、奥深さ、楽しさ、有用性などを新鮮な感覚で表現した未発表のもの。「こどもの読書週間」標語は、子どもの読書を念頭にご応募願います。

②応募用紙＝官製はがき、Ａ４判ファックス用紙、メール

③応募作品数＝「こどもの読書週間」「読書週間」ともに、ひとり３作まで応募可。返却はいたしません。学校など団体での応募は、下選考をお願いします。（入選作の版権は公益社団法人読書推進運動協議会に帰属）

④締切＝２０２５年11月10日(月)必着

⑤賞＝「こどもの読書週間」「読書週間」それぞれに、賞を用意します。▼入選（１作）図書カード１万円分、標語として採用▼次点（２作）図書カード５千円分▼佳作（20作前後）図書カード２千円分

⑥発表＝入選・次点まで（『読書推進運動』１月発行号紙上、佳作は賞発送で）

⑦送り先＝〒101－0051 東京都千代田区神田神保町１－32 出版クラブビル６階 公益社団法人 読書推進運動協議会 「こどもの読書週間」標語係 または「読書週間」標語係（どちらへの応募か明示してください）

・FAX０３－５２４４－５２７１

・メールアドレス＝hyogo@dokusyo.or.jp 件名は「こどもの読書週間標語応募」または「読書週間標語応募」

事務局報告（9月）

・3日＝ＩＢＢＹ会長来日講演会に出席（童心社）

☆8日＝「優良読書グループ表彰」推薦締め切り

☆8日＝機関紙『読書推進運動』694号入稿

☆9日＝機関紙『読書推進運動』694号責了

☆10日＝日本図書普及株式会社訪問打ちあわせ

☆12日＝野間読書推進賞 選考委員会 開催

☆12日＝機関紙『読書推進運動』694号出来

☆16日＝野間読書推進賞 受賞者、推薦者に通知郵送

☆18日＝野間読書推進賞 選外通知郵送

・19日＝伊藤忠記念財団常務理事来所、打ちあわせ

☆25日＝第3回 常務理事会 案内郵送

☆25日＝日本出版クラブと野間読書推進賞 贈呈式打ちあわせ

☆25日＝産経新聞より取材

☆30日＝２０２６『若い人に贈る読書のすすめ』書目推薦しめきり

お詫び

『読書推進運動』694号（２０２５年９月15日発行号）の「優良読書グループの歩み」に掲載した、「いとまん 読み聞かせの会 日々草」（沖縄県）の文章が、推薦資料に添付したものであり、その後、同会代表者名で提出した文書ではないとのご指摘を、沖縄県読書推進運動協議会よりいただきました。失礼のほどをお詫び申しあげます。同会よりいただいた文書と写真をあらためて、本号に掲載いたしました。

読書推進運動協議会 X（旧 Twitter）

●編集部＆事務局の ひ・と・こ・と

●夫が現在、私の母校（高校）に勤務しているので、ここ数年、文化祭を見に行っています。校舎は建て替わりましたが、一部の生徒用ロッカーが当時のままだったり、アヒルかペリカンか見分けのつかない鳥が飾られている「愛の泉」が残っていたり、ヘンなところに面影が…。今年は文化祭特設サイトが用意され、行列必至の人気演目はＱＲコードで予約。私がいたころから人気の剣道部による時代劇「人生劇場」は、あっという間に予約でいっぱいでした。

●デジタル化の一方、部誌・会誌を用意した24の団体をめぐる「出版物スタンプラリー」もあり、ラリー主催者と思しき団体のブースには「○高の志望理由＝出版のやつ、いるだろう？」のひとことが。部誌のほか、ほぼ全団体がリーフレットやチラシを用意しており、生徒会室のリソグラフ（３台あるらしい）はフル回転だったようです。高校生の印刷出版にかける情熱に圧倒されました。

●文化祭当日は学校図書館も開放され、校内の喧騒に疲れた来場者が絶え間なく訪れるオアシスとなっていました。図書委員が地元書店で本を探す「ブックハンティング」の様子と、選んだ本も展示されていました。司書さんによると、生徒たちが選んだ本を、書店のバックヤードで学校の蔵書と重複していないかスマホで確認したとのこと。「以前だったら、選んだ本を持ち帰って照合するところが、楽になりました」。デジタルとアナログ、それぞれのよさを感じる文化祭訪問でした。（伸）